

## 「お仏壇でのお経の唱え方 その8」



令和4年2月



寺  
讚  
恵  
心

発行 〒610-0343  
京都府京田辺市  
大住八河原九  
宿谷真治  
電話 0774-62-3137

昨年五月から寺報にて「お仏壇でのお経の唱え方」を解説しております（あくまで両讚寺・恵心寺の宗派である浄土宗のお話になります）。

七回目はお仏壇のお手入れについて説明をしました。

さて、お仏壇にお花、お線香、ローソクをお供えし、お仏壇の前に座ります。

先ずは数珠を持ち、お仏壇へ合掌をしましょう。

浄土宗の数珠は「二連数珠」と言われており、二つの数珠の輪を一つに繋いだ形が特徴です。

合掌の時は、二連とも親指に掛けて数珠の輪も房も手前に垂らします。

浄土宗は念仏の修行を最も

重視しており、より多くの念仏を称えることが大切とされています。

したがって、浄土宗の数珠は念仏の数を取る（数える）ことが出来るようになっていきます。

二つの輪のうち、数の多い方の数珠と数の少ない方の数珠があります。

念仏を数える時は左手で、数の多い方の数珠を親指と人差し指の間に挟み、南無阿弥陀仏

一声ごとに、一つの珠を繰っていきます。

もう一つの輪は、左手の人差し指と中指の間に挟んでおきます。

親指の方の数珠が一周して親玉が巡ってきたら、中指の方の数珠を一つ繰ります。

そのようにして、念仏を称え

た後に、二つの輪の珠の位置で数が計算できるようにになっています。

数の多い方の輪は親玉を除いて二十七あり、四周すると一〇八になります。

数の少ない方の輪は親玉を合わせて二十一あり、ご真言の数を取るのに適しています。

つまり、浄土宗の数珠は持つことで「煩惱が消える」、「身代わりになって護ってくれる」、「弾けた時に何かのキツカケを示してくれる」ということ以外に、『念仏の数を数える道具』として持つという大切な意味があるのです。

実際に使用をしてもらえばわかりますが、合掌の時、親指に掛け手前に数珠を垂らしておくと、浄土宗特有の持ち方は、いざ念仏の数を数える時に、速やかに数珠を繰る持ち方に移行することが出来ます。

そして、合掌の持ち方にもすぐに戻すことが出来るように

なっています。

昔から「優秀な職人の使用する道具には魂が宿る」と言われているように、浄土宗の数珠は「道具として使用」することに大きな意味があります。

お念仏を称えて数珠の珠を一つ一つ繰っていくうちに、数珠の珠一つ一つが念仏を称えた証になり、そこには仏の功德が宿ります。使えば使い込むほど艶が出て色も変わってきて風合

いも出てきます。数珠は房が駄目になってきても修理をすることで、何十年と使用することが出来ます。

この機会に一度、ご自身の数珠を出してきて、毎日少しでもお仏壇の前でお念仏の数を取りながら、ご自身の数珠を人生の特別な思い出の一つとして育てていかれてはどうでしょうか。